

うきしま

第87号

令和7年3月19日
PTA広報部

令和6年度

卒業証書授与式

式 辞

京都府立東舞鶴高等学校

校長 田中 重春



舞鶴湾を吹く夜風が春の訪れを感じさせる今日、ここに令和六年度京都府立東舞鶴高等学校定時制課程卒業証書授与式を挙行できますことを、大変うれしく思います。また、御来賓として、御多忙の中を御臨席賜りました京都府議会議員

池田 正義 様

本校同窓会長

福本 清 様

定時制PTA代表

山本 新治 様

には、ともに卒業生の門出をお祝いいただけますことに、高段からではございますが、厚く御礼申し上げます。

六名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

様々な思いや不安を抱きながら浮島分校の門をくぐった日から四年、いよいよ浮島分校での高校生生活最後の日となりました。皆さんは高校生活の約半分をコロナ禍の中で過ごしてきました。しかしながら、そんな中でも、仕事やアルバイトと両立させながら、一度は

あきらめたりしたことを一つ一つ取り戻そうと粘り強く辛抱をして、毎日の授業を受け、卒業後のそれぞれの目標を達成するため、我々教職員とともに一歩ずつ今日まで歩み続けてくれました。また、生徒会活動、部活動や学校行事の中心として活躍し、一人ひとりが持つ可能性、そして仲間を気遣うやさしさを示してくれました。そのような皆さんに、心から敬意を表し、この浮島分校と在校生に勇気と希望を届けてくれたことに深く感謝をします。

そして、保護者等の皆様、御家族の皆様におかれましては、お子さまの御卒業、誠におめでとうございませう。今日の良き日を迎えられ、立派に成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと御推察いたします。その健やかな成長を願い、慈しみ育ててこられた皆様に、教職員を代表し、心よりお慶びを申し上げます。

さて、皆さんが浮島分校で過ごした四年間は、社会、世界が大きく変化した四年間でした。コロナ禍をきっかけに、学校の授業では、生徒がタブレット端末を活用し、先生たちがデジタル機器を活用する姿が日常となりました。遠方の相手とは、オンライン会議をすることが当たり前になったり、多く

のモノがAIで制御され、インターネットとつながったりして、人の作業に頼らない便利な状態が日常になってきています。さらにはデータを組み合わせる新しいものを作る生成AIも急速に進化しています。日常が次々と新たな常識に置き換えられた四年間でした。

一方で、令和六年度元日には能登半島地震、最近であればロサンゼルス山の山火事など、自然災害のためには多くの方々が犠牲になつたり、被災されたりして、自然に対する人間の弱さを痛感しました。

さらにはロシア・ウクライナの問題、イスラエル・パレスチナの問題など、世界各地では争いが続いています。人の心の、他者の痛みや苦しみを理解し、寄り添う部分が薄れ、不寛容になってきたのではないかと感じずにはいられない日常を経験した四年間でもありました。

しかしながら、これだけ常識が変わったり、紛争や災害があつたりしても、人は、新しい常識を生み出し続け、助け合いながら紛争や災害から立ち直ろうと歩みを続けています。見方を変えれば、ピンチに思えることも、新しい社会の可能性につながると言えるのではないのでしょうか。

私たちの進歩の原点は「誰もが

幸せになるために」という思いにあります。それが、学びの壁、時間や距離の壁、復興の壁などを打ち破ってきました。誰もが幸せになるために、改善できる、改善すべきことは、まだ多くあります。日常生活の中のちよつとした工夫や気遣い、災害に備えるための新たな対策、そして、利己的ではなく、多様性を受け入れる寛容さを意識することなどは、それらの一部です。大切なのは、どんな状況下でも、逆境や困難からしなやかに回復し、乗り越えることです。これまで歴史の中で人がそうであったように、皆さんが進む新たな場所で、自分と他者の幸福のために、立ち向かい、立ち上がることでできる人になってください。

ところで、英語で古くから使われてきた「転がる石に苔むさず」という言葉があります。ずっと転がらないでいることから、一カ所に長い間とどまっている石には、苔が生えてきます。それに対して、一カ所に長くどまらない石には苔が生えないという意味です。そのことから、アメリカでは「絶えず活動している人は、常に清新でいられる、つまり、新鮮で生き生きとした状態でいられる」ことの喩えとされています。言い換えれば、「何事も、途中であきらめてしまうのではなく、ゆっくりでもよ

いので前へ歩み続ければ、いつも新たな気持ちになることができ、新たな出会いがある」ということです。皆さんには、これからこのことを意識し続けてほしいと思います。一つ一つ小さなことから新しいことに挑戦し続け、歩みを止めないでください。急激に変化し続ける社会に足を踏み入れる皆さんだからこそ、誰もがそれぞれの進む道で、それぞれの良さを生かし、自身も含めた誰もが幸せになる未来を築いていくために、自分のペースで歩み続ける人、「転がる石」になってください。

皆さんは、これまで浮島分校で悩み、苦勞しながらも学びを続け、少しずつ自分自身を変えることができました。そんな皆さんなら必ずそうあり続けられると信じています。皆さんの過去で、皆さんの未来が決定されることはありません。昨日できなかったことが、今日できることがあります。今日できなくても、少し方法を変えたり、分割して取り組んだりすることで、明日にはできる可能性が大いにあります。過去は今日のための、明日のための練習に過ぎないので、どうか、この浮島分校での頑張りを思い浮かべながら、そういった挑戦を続けられる人になってください。そして、皆さんを含めた私たちには、社会や地域を将来

の世代へと継承していく責任もあります。社会や地域の幸福のために、変化させてはいけないうものを失ってはいけないうものを大切に引き継いでいかなければなりません。一人ひとりが共に、隣人と関わり、地域と関わる中で、「私たちの暮らすこの地域は、こんなに豊かで幸福な暮らしができる」という地元愛を忘れずに行動をしていく必要もあります。この「地元愛」を決して失わないでください。地元に残る人は、これからもここにいる私たちと共に、素敵な未来と街を創っていきましょう。将来地元を離れることがあっても、舞鶴、浮島分校のことを忘れず、それぞれの土地で学び、活躍してください。そして、一度は離れても、また戻ってきて、地元で活力を与えてくれる人が一人でも多くなることを願っています。

結びにあたりまして、保護者等の皆様、御家族の皆様には、今まで浮島分校の教育に深い御理解と、様々な場面での温かい御協力、御支援をいただきましたことに、深く感謝申し上げますとともに、今後も引き続き浮島分校の応援団でいてくださいますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。そして本日、この学び舎を旅立っていく卒業生の皆さんの前途が幸多きものとなることを心から祈

念するとともに、御出席いただいた全ての方々の御健勝と御多幸を祈念し、式辞といたします。

令和七年二月二十八日

京都府立東舞鶴高等学校

校長 田中 重春



卒業証書授与

各学年より



令和6年度卒業生（6名）

一年担任 有安 志悠

三学期は一月に「カルタ大会」、二月には「ボウリング大会」「卒業式」などの学校行事がありました。「カルタ大会」「ボウリング大会」ではグループごとに分かれてワイワイ賑やかに楽しむ様子が印象的でした。また、「卒業式」は出席した一年生たちが三年後に自分たちもあの場に立ちたいと思うような素晴らしい「卒業式」となりました。

さて、早いもので入学から間もなく一年が経とうとしています。今年の一年生は十五人という比較的多い人数でスタートしました。残念ながら一人だけ学校を去ってしまいました。残りの十四人は無事に一年間の学校生活を終えることができました。一年間登校して授業を受ける、と書くとは簡単に見えますが、仕事やアルバイト等が終わった後、疲れている中で登校して授業を受けるのは大変だったと思います。よく頑張りましたね。

一方で二学期あたりから欠席や早退が目立つようになりました。疲れている中で「今日は休みたい」「今日は早く帰りたい」という気持ちになるのは分かりますが、そのせいで出席日数がギリギリとなり体調不良でも休めず自分から厳しい状況に陥った生徒が何人か見受けられました。来年度は安心して進級できるように、そして新一年生の手本となるように欠席や早退を減らしていきましょう。

二年担任 河本 壮平

今年度もいよいよ終わりを迎えます。私たちは先輩たちの卒業を見送りました。卒業生の先輩たちが新たな一歩を踏み出す姿を見て、皆さんも多くのことを感じた

のではないでしようか。先輩たちが見せてくれた努力と成果は、皆さんにとって大きな刺激となったことでしょう。彼らが歩んできた道のりは決して平坦ではなかったはずですが、しかし、困難に立ち向かい、目標に向かって努力し続けた結果、今日の輝かしい姿があるのです。

在校生の皆さんも、これからの一、二、三年間、先輩たちに負けないように自分の目標に向かって努力を続けてください。どんなに小さな一歩でも、それが積み重なれば大きな成果となります。日々の学習態度や生活態度を今一度振り返り、小さな一歩を積み重ねてください。

さて、今年度二年生だった皆さんは新三年生となります。一年前、一年生から上がった七名と転校して新たに加わった一名の計八名全員で、次の学年に無事に進級できることは、とても素晴らしいことです。皆さん一人一人、クラス内で色々思う所もあり、多くの苦難がありました。なんとか二年生を乗り越えた皆さんに「頑張ったね」という言葉を送りたいです。

改めて皆さんに言うておくと、色々な人がいる学校であり学級です。「自分なりに（自分の）努力をすること」をモットーにしてください。他人がしているから、し

ていないから、という理由ではなく、自分の成長のためにすべきことを積み重ねてやっていきましょう。最後に、これからの皆さんの成長を心から楽しみにしています。新しい年度も共に頑張ります！



在校生送辞(代表・山中 大慈)

三年担任 村上 和也

三年生は欠席も少なく、学習や行事に対しても意欲的に取り組むさわやかな若者らしい集団でした。常に上向きの姿勢が見られ、気持ちよく担任をすることができ、文化祭でも力を発揮できた素晴らしい一年間でした。いよいよ四年生となります。浮

島分校から社会に出ていく大きな変化の年となります。すでに進路に向けての準備を進めている人もいますが、進路決定のための一年になり、今まで以上に濃い学校生活を送ることになると思います。共に高めあい支援をしていくようにしたいと思います。

四年担任 温井 正人

二月は雪日が昨年と比べると多かったですが、雪掻きをせずに進む程度の積雪量でした。しかし梅の開花が一ヶ月程遅れる厳しい寒さが続き、早く寒さが和らいで欲しいと願う毎日です。

そんな中、無事卒業式が行われ、六名の四年生が来賓や保護者の皆様方、教職員、後輩達に見守られながら卒業証書を授与されました。元々五名でスタートしましたが、そのうちの四名がストレートで卒業を果たしています。

各学年、色々なカラーがあります。この学年は独立して干渉し合わない雰囲気がありましたが、尊重し合い、必要な時には協力し合うことができていたと思います。

四年間或いは五年間の高校生活で得たことは各々違うでしょうが、「やり遂げた」という成就感、「あのとき楽しいこともあったなあ」という幸福な記憶はこれからの人生において、見えないけれど

も頼もしい心の支えの一つになるだろうと確信します。

これから進む道で様々な事が起こることでしょう。どうしてもわからないこと、困ったことがあれば、素直にいろいろな人に頼り、前進していくことが大切だと思います。一番身近な存在は当面保護者等の方だと思います。そのときには是非アドバイスをお願いいたします。

では、四年生の皆さん、またお会いすることがあればいいですね。お元気で、See you!



卒業クラス担任・温井 正人 先生

学年部以外の校務分掌より

教務部長 青松 載剛

年をまたぎ、いよいよ今年度もあと少しだなと感じていた矢先に、いつの間にか陽気を感じるようになり、春だなと思う日が増えてきました。

来月からは新一年生が入学します。新しい環境に、夜間の授業ということで不慣れなことだらけなので、戸惑いもあると思いますが、新二・三・四年生が先輩として接してくれることを期待しています。

人間一人では生きていけません。自分だけが頑張って、自分一人で生きているような気持ちになることもあるかもしれませんが、その裏では自分を思ってくれている人がいて、理屈抜きに楽しく過ごせる人がいて、それぞれにいろいろな関わりがあります。そんな関わりが大事なことに気づいて、感謝できるように成長してほしいと思います。

ところで、何のために学校へ通っているのか、明確に理由はありますか？このご時世、高校を卒業していなくても仕事があるので、生きていくことはできるのかなと

思っています。そんな中、毎日学校に来て、勉強をして、夜九時の授業が終わったら帰宅する。浮島分校は卒業するまで四年間あります。仕事をしながら通うことができますが、ただなんとなく、この四年間学校生活を送るのは、あまりにもつたいないです。将来の自分のためにも何か目標をもって過ごしてくれることを、ぜひ、御家庭でもお話してみてください。



卒業生答辞（代表・山本 愛琉）



卒業記念品贈呈（代表・村島 琉斗）

生徒指導部長 山段 優

また、春がやってきます。皆さんにとってどのような一年だったでしょうか。

生徒指導部では様々な行事を計画、実施してきました。生徒の皆さんの行事への出席率も高く、充実したものが多かったと感じています。来年度もより充実した活動になるよう、生徒の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

一方で、少し気になっていたりすることがあります。授業中の私語や他者を大切にしない発言や態度等です。浮島分校はほとんど校則というものはありません。だから

こそ、指導されるのは、「人として」間違ったことをしている時だと思っています。自分の行動を振り返り、周りの人を大切にするのもう一度考えてほしいと思います。

進路指導部長 山本 彰治

去る二月二十八日に卒業式を挙行し、六名全員が無事に浮島を巣立っていきました。

今年の進路指導部では、目標を「百パーセントの進路実現」と掲げていたのですが、残念ながら、結果的には達成できませんでした。

初めて進路指導部長になり、出張の多いことや、報告文書の多さ、また七月からの就職時期には、六百件近くの求人票が浮島分校に届き、入力が大変だったことが思われます。

しかしその半面、就職関係や進学関係で、多くの人と接する機会があり、自分自身の勉強にもなりました。

三学期の進路学習では、初めての試みとして、正規雇用で働き、

活躍している卒業生を招き、講演を開催しました。在校生にとつては将来の自分を想像する機会となり、また就職に対する心構えにもなったことでしょう。

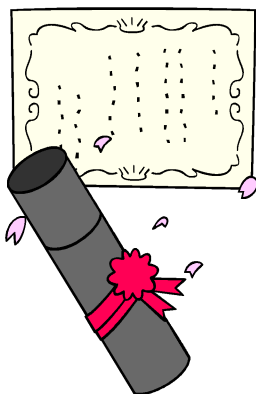
現在の三年生には、大学への進学を希望する生徒も複数おり、進路も多様化してきています。次年度もそれぞれの生徒の進路実現を目指して、臨機応変にアシストしていきたいものです。

保健部長 村上 和也

今年もまた一年が過ぎました。生徒の皆さんはそれぞれの場で活躍し、成長できたのではないでしょう。

今年は新型コロナウイルスの流行が少なくなりましたが、まだないわけではありませんでした。浮島分校でも数名程度の感染事例がありました。さらに例年なら冬場だけのインフルエンザウイルスの感染も春や夏に起こることもあります。浮島分校でも罹患者が出ております。またノロウイルスなどにも感染することもありました。夜間の学校のため生活リズムが家族と合わなかったり、日光を浴びる時間が少なかったりと免疫力の低下が心配されます。体調を整えるために必要なビタミンを多くとって、丈夫な体を作ってほしいものです。

来年度はどんな生徒たちが入ってきて、今いる生徒たちはどんな活躍をし、新しく何ができるようになり、そしてどれだけ逞しく成長するのか楽しみです。新年度もまたいっしょになって、頑張っていきたいと思います。



3学期の生徒の活動

○新春カルタ大会

- ・実施日 令和7年1月9日(木)
- ・場所 多目的教室



「百人一首カルタ」と「ことわざカルタ」を行いました。

山本裕一先生に詠み手をしていただきました。



○予餞会 ボウリング大会

- ・実施日 令和7年2月10日(月)
- ・場所 舞鶴マリンボウル



2ゲームの合計得点で競う個人戦を行いました。

生徒の活躍

☆全国高等学校

定時制通信制教育振興会
令和6年度優秀生徒表彰

○生徒会活動功労

4年 山本 愛琉

☆令和6年度校内漢字検定

○名人位
4年 山本 愛琉

今後の日程

○第3学期終業式

3月19日(水)

○令和7年度1学期始業式

4月8日(火)

○令和7年度入学式

4月9日(水) 18時

○身体測定

4月10日(木)

新学期には、元気な顔を見せてください。